

【COVID-19と教育の新たな試み】 コロナ禍における公衆衛生看護学実習の試み

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-06-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 平塚, 久美子, 市原, 千里, 永井, 健太, 照沼, 正子, HIRATSUKA, Kumiko, ICHIHARA, Chisato, NAGAI, Kenta, TERUNUMA, Masako メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.50818/00000095

【資料】

コロナ禍における公衆衛生看護学実習の試み

The attempt on conducting practical training in public health nursing under covid-19 pandemic

平塚 久美子¹ 市原 千里¹ 永井 健太² 照沼 正子¹

Kumiko HIRATSUKA Chisato ICHIHARA Kenta NAGAI Masako TERUNUMA

要 旨

公衆衛生看護学実習（学校保健実習，地域保健実習）は保健師課程の学生が4年次に履修する科目であるが，2020年度はCOVID-19の影響で現場の状況から実習受け入れ困難となった施設もあり変更を余儀なくされた。学校保健実習は全日程リモート実習とし，児童の健康問題に関する課題学習，健康教育媒体作成，DVD視聴による学習で構成した。地域保健実習（市町村保健センター，保健所）は実習施設の状況により受け入れ日数に差が見られたが，不足する日数はリモート実習とし，5種類のテーマから実習地で体験できなかった内容を選択して提供した。実習の結果，保健師課程19名の学生全員が高い評価点で実習の単位認定を受け，リモート実習内容の妥当性が伺われた。さらに今後も臨地実習での体験不足の補完として活用できる可能性が示唆された。制限のある実習とコロナ禍で奮闘する保健師の姿は学生の意欲を刺激し，臨地に赴けることに感謝し，自主的・積極的な実習となった。

キーワード：公衆衛生看護学実習，リモート実習，保健師課程学生

I. はじめに

公衆衛生看護学実習は看護学士課程の中で，保健師課程を希望し試験によって選抜された学生が4年次に履修する実習科目である。保健師助産師看護学校養成所指定規則に定められた実習単位は5単位であるが，本学では「公衆衛生看護学実習」として4単位と，「看護統合実習」としての2単位を合わせて指定規則を満たしている（表1参照）。「公衆衛生看護学実習」では学校保健（小学校実習）と地域保健（保健所実習・市町村保健センター実習）を中心に臨地に出向き，「看護統合実習」では産業保健（事業所・労働衛生機関）を位置付けている。

2020年1月に確認されたCOVID-19は，3月には小中学校の一斉休校，4月には緊急事態宣言の発令という状況となり，2020年度のカリキュラム展開に大きな影響をもたらした。特に臨地実習については保健医療現場の業務逼迫と感染拡大防止の観点から実習受け

表1 公衆衛生看護学における実習の構成

実習名	単位	実習分野	実習場所
公衆衛生看護学実習	4単位	地域保健実習	都道府県保健所 市町村保健センター 地域包括支援センター
		学校保健実習	小学校
看護統合実習	2単位	産業保健実習	事業所・労働衛生機関
		テーマ別実習	市町村保健センター・事業所 地域包括支援センター等

入れが困難な状況が発生し，公衆衛生看護学実習においても，文部科学省・厚生労働省から示された事務連絡^{1) 2)}に則り，実習方法の変更を余儀なくされた。前年度までの臨地実習計画や過去積み重ねてきた実習方法をそのまま実施することがかなわない先の見えない状況の中，たとえ臨地に出る時間数が減少しても目標を達成できる実習内容をどのように提供していくか，模索しながら取り組んできた。ここでは，コロナ禍の中で取り組んだ「公衆衛生看護学実習」における教育の実践を整理し報告する。

¹ 東都大学ヒューマンケア学部看護学科

² 日本赤十字看護大学さいたま看護学部
E-mail: kumiko.hiratsuka@tohto.ac.jp

なお本報告においてリモート実習とは「実習地に出向き対面で行う従来の臨地実習に変わり、実習地には出向けないが臨地実習と同様の学修目標が達成されるよう計画されたオンライン（Microsoft Teams）を利用した実習」と定義する。

II. 従来の公衆衛生看護学実習の方法

1. 実習の目的

公衆衛生看護学実習の目的は「保健所、市町村保健センター、地域包括支援センター、学校などでの看護活動における展開の実際、継続した訪問指導を含む個人・家族・集団の生活支援、又、集団のアセスメントや支援活動の計画・実施評価・行政との関係や危機管理等の地域看護管理等臨地実習を通して学ぶ」としている。

2. 実習の構造

公衆衛生看護学実習は、「地域保健実習（保健所、市町村保健センター、地域包括支援センター）」と「学校保健実習（小学校）」からなり、4年次前期に位置付けている。

3. 実習を履修する学生

公衆衛生看護学実習を履修する学生は、2年次に保健師課程を希望し試験によって選抜された学生（定員25名）のうち、実習までに必要な単位をすべて修得または修得見込みのものが対象となる。

4. 実習内容の詳細

従来の実習内容を実習分野ごとに示す。

1) 学校保健実習

- (1) 目的：学校教育の場で児童・生徒および教職員らがどのように保健活動に取り組んでいるか観察し、理解を深める。
- (2) 目標：①児童・生徒の発育、発達、健康状態を把握する。②養護教諭を中心とした、日常の保健室運営を観察、理解する。③健康診断、健康相談、環境衛生の諸活動の内容を理解する。④養護教諭、一般教員が行っている保健教育活動がどのように進められているか観察、理解する。

(3) 具体的方法

〈日程〉6月上旬に2グループに分けて各1週間実施する。
 〈実習施設〉前年度中に深谷市教育委員会を通して市

内8校に依頼している。

〈実習内容〉各小学校のプログラムに沿って行動する。一クラスを拠点として時間割に沿った一日の流れの中での児童の成長発達の観察、学校長の講話や保健室での児童との関わり、養護教諭からの説明などを通して、学校保健活動や養護教諭の役割などを学ぶ。また実習校の児童の健康課題に向けた掲示物の作成を通して保健教育を実践する。

2) 地域保健実習

- (1) 目的：人々が生活する地域で、住民らの健康を守る保健活動が、どのような場所で、どのように実践されているか、観察し理解を深める。
- (2) 目標：①地域の健康状態をアセスメントし、地域住民の健康ニーズ、健康課題を明らかにする。②地域の健康ニーズや健康課題に応じた地域看護活動を計画し、計画の一部を実施し評価する。③健康診査、健康相談、健康教育、家庭訪問、セルフヘルプグループ育成等、地域看護活動の方法を理解する。④地域保健活動における社会資源の種類や機能について理解し、保健、医療、福祉等の関係機関・関係職種との連携について学ぶ。⑤保健所、市町村保健センター、地域包括支援センター等の機能と保健師の役割を学ぶ。

(3) 具体的方法

【市町村保健センター】

〈日程〉6月中旬から7月上旬の3週間の中で各施設5日間の実習を実施する。

〈実習施設〉前年度中に埼玉県内12か所の市町村保健センターに依頼している。

〈実習内容〉各市町村保健センターの事業計画に沿って保健事業の体験、家庭訪問の同行、地域組織活動や関係機関との会議へ参加する等である。

【県内保健所】

〈日程〉4月下旬に保健所ごとにすべての実習校が合同オリエンテーションに参加する。また8月下旬から9月中旬の4週間の中で、各グループ5日間の実習を実施する。

〈実習施設〉前年度に県の決定により保健所5施設を指定される。

〈実習内容〉合同オリエンテーション：保健所業務全般について講話を受ける。5日間実習：各保健所の事業計画に沿って保健事業の体験、家庭訪問の同行、地域診断の発表、家庭訪問記録を読み取り事例検討する等である。

Ⅲ. コロナ禍における公衆衛生看護学実習の方法

1. コロナ禍による実習への影響

1) 学校保健実習について

2020年の3月2日から全国の小中学校と高校、特別支援学校に臨時休校が要請され、4月7日から5月25日にかけて発令された緊急事態宣言により休校期間が延長された。深谷市の小学校は6月1日(月)から再開されたが始めは短縮授業というスケジュールが示された。本学実習予定日直前の小学校再開であり、児童の久しぶりの登校や消毒作業の必要性など、現場の負担や混乱が予測される状況を考慮し、学校保健実習は全日程臨地に赴かないリモート実習とする旨深谷市教育委員会に申し出た。

2) 地域保健実習(市町村保健センター)について

緊急事態宣言の期間中、埼玉県内の市町村は計画していた保健事業を中止していた。宣言解除後6月から保健事業再開となり、4・5月に実施予定の乳幼児健診等の保健事業に該当する対象者の分も順次実施していく必要が生じていた時期に実習期間が重なった。市町村により新型コロナウイルス感染症に罹患した住民の人数や、追加予定の保健事業対象者の人数も異なり、感染対策上の対応も様々で実習受け入れに差が見られた。予定していた5日間全て受け入れ可能とした保健センターは5か所、業務負担増加による実習期間短縮とした保健センターが4か所(3日間:3か所, 1日:1か所)、実習期間を9月に変更が1か所、実習全面中止が2か所であった。

3) 地域保健実習(保健所)について

新型コロナウイルス感染症対応で最も業務多忙となった保健所は、4月の合同オリエンテーションについては県内すべての保健所で中止となった。8・9月実習については感染者の人数によって受け入れに差が見られた。5日間全て受け入れ可能とした保健所は2か所、3日間に実習期間短縮とした保健所が2か所、実習全面中止が1か所であった。実習開始後も新規感染者の状況によって実習受け入れ状況は日々変化し日程の変更等もあった。

2. コロナ禍における臨地実習の取り組み

1) 学校保健実習

全ての学生対象にMicrosoft Teamsを利用し(以下同様)リモート実習用に課題を作成した。5日間の日程で2期にわけ、1グループ3～4人の学生で構成し、教員は1～2グループを受け持った。実習の具体的な内容を表2に示す。

一例として健康教育媒体の作成を挙げて詳細を述べる。例年の学校保健実習では養護教諭の指導を受け児童向け掲示物を作成していた。今回は大きな掲示物を共同作業で作成することは困難なため、実習小学校の児童の健康問題の抽出、その解決のための健康教育の企画書作成はグループワークとし、児童向けリーフレットの作成は個人ワークとして提示した。リモートでのグループワークは授業で体験しておりスムーズに実施できた。作成した企画書を元にリーフレットの内容分担をどのようにすれば効果的か綿密に話し合った。

表2 学校保健実習・リモート実習内容

	テーマ	内容	備考
1	課題学習：現代の児童の健康問題	現代の児童の健康問題を各自取り上げ、学校保健の構造に当てはめ、改善方法、地域保健との連携協力について具体的に記述し意見交換する。	
2	健康教育媒体作成	グループで実習小学校の児童の健康問題をアセスメントし、必要な健康教育の企画書を作成する。個人で健康教育媒体としてリーフレットを作成し学生間で発表し意見交換する。実習小学校に作成したリーフレットを届ける。	
3	DVDから学ぶ①	学校保健のしくみと養護教諭の役割を示したDVD視聴。学校保健の構造の中での様々な活動の実際の映像から得た学びを記述し意見交換する。	DVD：新・地域看護活動とヘルスプロモーション(4)学校保健
4	DVDから学ぶ②	発達障害に関するDVD視聴。知識を整理し、実際の障害のある児童の家庭や学校生活の映像から、学校保健における発達障害の理解と必要な支援方法について記述し意見交換する。	DVD：発達性協調運動障害(DCD)の理解と支援(1)(2)

教員はグループワークの音声を常に聞きながら必要時助言をし、学生は何回も修正を重ねた。途中経過をメンバー間で共有し内容の重複や不足を確認し合い、お互いの工夫点や改善点を効果的に意見交換していた。

2) 地域保健実習（市町村保健センター）

実習全面中止が早期に決定した市町村に該当する学生1名は、実習可能な他市町村に依頼し5日間実習可能となった。しかし遅れて実習中止が決まった学生1名は受け入れ先の調整が不可能であった。実習1週間前になり、A町保健センターでの実習学生1名が発熱により実習不可と判断された。A町保健センターに交渉し、発熱した学生の代替として前述の学生1名と、臨地実習体験が1日となる学生2名の計3名を、1日ずつ分散して実習させてもらうことができた。その結果発熱した学生を除き、少なくとも1日は臨地に行くことができた。

臨地に行くことができなかった日数はリモート実習で補う計画とした。リモート実習の具体的内容を表3に示す。

全日程リモート実習であった学校保健実習と異なり、

臨地実習日数や体験が様々な学生に対して、リモート実習内容は5パターン用意し、各自が臨地で体験できなかった内容を選択し補完できる形式とした。教員は5種のテーマと目的を明確にし、最適なDVDを選択し、そのDVDの中で着目すべき点を課題として提示し、その記述に適應する実習記録用紙の修正等の工夫をした。

DVDを使用したリモート実習の一例として「家庭訪問・母子保健事業」を挙げて詳細を述べる。例年市町村保健センター実習では、対象者の同意が得やすい新生児訪問の体験が多くみられる。その補完としてDVD「地域看護活動とヘルスプロモーション(2)家庭訪問の展開とコミュニケーション技術」の視聴を指示し、「実際の新生児訪問の場면을視聴することによって、公衆衛生看護活動における訪問について、対象の選択・訪問準備・実施・評価の一連のプロセスについて学ぶことができる。また母子保健事業における母子包括支援の意義を考えることができる。」という目標を示した。実際訪問に同行したと考えて、事前学習で記述した「家庭訪問時に観察するべき視点」に沿って、

表3 地域保健実習（市町村保健センター実習）・リモート実習内容

	テーマ	内容	備考
1	健康教育・ライフサイクルに応じた保健事業	実際に市町村が展開している健康教育事業に関するDVD視聴。公衆衛生看護活動における健康教育の企画・実施・評価の一連のプロセスと保健師の役割について学び記述する。自分の実習地にあてはめて考えられるように意見交換する。	DVD：続・地域看護活動とヘルスプロモーション(1)公衆衛生看護活動における健康教育
2	家庭訪問・母子保健事業	実際の新生児訪問場面のDVD視聴。公衆衛生看護活動における訪問の対象の選択・訪問準備・実施・評価の一連のプロセスについて学び記述する。母子包括支援システムを説明し現在の新生児訪問の位置づけを考える。実習地の地域診断で得た情報を活用し、様々な状況を想定して「今後必要とされる社会資源」を考え意見交換する。	DVD：地域看護活動とヘルスプロモーション(2)家庭訪問の展開とコミュニケーション技術
3	母子保健における地域ケアシステム	地域ケアシステムの構築についてDVD視聴。実際の市町村での母子保健事業の展開から関係機関・関係職種との連携の意義を考える。DVDに登場した事業・会議、参加者の職種や所属を書き取りその職種や担当課、事業や会議を調べ記述する。自分の実習地にあてはめ意見交換する。	DVD：新・地域看護活動とヘルスプロモーション(1)地域ケアシステム：母子部分
4	高齢者保健における地域ケアシステム	地域ケアシステムの構築についてDVD視聴。実際の市町村での高齢者保健事業の展開から関係機関・関係職種との連携の意義を考える。DVDに登場した事業・会議、参加者の職種や所属を書き取りその職種や担当課、事業や会議を調べ記述する。自分の実習地にあてはめ意見交換する。	DVD：新・地域看護活動とヘルスプロモーション(1)地域ケアシステム：高齢者部分
5	A町の地域特性と保健事業	A町の実習で各自が経験した保健事業、A町以外の地域診断に取り組んだ学生の地域診断を共有し、地域特性から保健事業や地域ケアシステムの特徴を考え意見交換する。	A町保健センターの実習に関わった5名対象

視聴した訪問場面から情報収集し、アセスメント・問題抽出し、訪問後の支援計画まで家庭訪問記録に記述することを「課題1」とした。当該DVDの作成時に母子包括支援システムがなかったことから「母子包括支援システムについて復習し、現在の新生児訪問について考える。」こと、また「各自が実習地の地域診断で得た情報を活用し、〈今後必要とされる社会資源〉について様々な状況を想定して記述する。」ことを「課題2」とした。「課題3」は課題1・2で記述した内容をもとにカンファレンスを実施し、意見交換の内容も含め自分なりに考察し実習記録に記述することとした。リモート実習は様々な実習地の学生を2～6人構成で実施した。午前は個人作業（課題1・2）、午後はリモートカンファレンス（課題3）で各自の学びを共有した。教員はそれぞれの実習地での事業やケアシステムの特徴など随時補足していった。

3) 地域保健実習（保健所）

実習全面中止となった保健所の学生3名は、2つの保健所に依頼し分散して実習可能となった。それにより発熱等の理由による実習不可となった2名の学生以外は、3～5日間の臨地実習を体験できた。しかし例年の保健所実習で行われていた同行訪問の実施は困難な状況であり、家庭訪問記録から支援状況をまとめ事例発表するなど、保健所ごとに工夫した実習内容が組まれた。

臨地に行くことができなかった日数はリモート実習で補う計画とした。リモート実習の内容を表4に示す。

保健所用のリモート実習は2パターン用意した。そのうちの一つは積極的疫学調査を選択した。学生は臨地実習で電話対応に追われる職員の姿を見ており、その経験の上に具体的な知識を重ねて、さらに対象者の心理面にも着目して学んで欲しいと考えた。午前は個人ワーク、午後はリモートカンファレンスで各自の学びを共有し、教員は様々な対象者を提示しながら学生の想像力を深めていった。

3. コロナ禍における臨地実習の評価

実習評価表は「学校保健実習」「地域保健実習」それぞれ100点満点で作成しており、平均を素点としている。学生は自己評価点と自由記載欄に記入し提出する。教員は担当した学生の評価点を記入し、評価会議で教員間の調整をしている。今回は評価表の記述を多少変更しリモート実習に当てはまるようにした。（例：参加できる→参加した場合の留意点が理解できる）

4. 本報告での実習の結果の考え方、倫理的配慮

今回の報告では、評価表の評価点（自己評価・教員評価）と評価表の自由記載を実習の結果とする。自由記載は教員間で検討し、内容の類似性に従い分類し、サブカテゴリ、カテゴリ名をつけた。実習評価は9月末に終了しており、学生への成績提示も済んでいる。自由記載の分析に際しては無記名のデータに加工した後分析することで、個人が特定されることが無いように配慮した。学生には研究の概要、実習評価表の自己

表4 地域保健実習（保健所実習）・リモート実習内容

	テーマ	内容	備考
1	積極的疫学調査における保健師の役割	新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するために、保健所保健師が日々対応している「積極的疫学調査」について具体的に理解する。資料を熟読し実習記録にまとめる。資料の中の「聞き取り調査のヒント集」を参考に、今の自分や家族の感染が判明したと想定し、投げかけられる質問を予測し、それに答える自分の気持ちを考え記述する。保健師として聞き取り調査をしていく上で留意すべきことを考察し意見交換する。	資料【保健師のための積極的疫学調査ガイド「新型コロナウイルス感染症」患者クラスター（集団）の迅速な検出に向けて】
2	事例検討から考える保健所保健師の役割	保健所で関わることが多い難病と精神の事例を基に、アセスメント・必要な支援・保健師の役割についてまとめる。カンファレンスでの意見交換を通じて、多職種・他機関との連携を含めた保健所保健師の役割について考察する。	
3	地域診断から考える保健所保健師の役割	保健所管内の地域診断をまとめてプレゼンテーション資料を作成する。保健所保健師の役割について考察しカンファレンスで意見交換する。	当該保健所指定課題のため当該保健所配置学生のみ実施

採点部分と自由記載部分を分析対象とすること、分析は無記名のデータに加工した後に行うので個人が特定されることがないこと、同意しなくても何ら不利益を被ることがないことを説明し同意を得た。

IV. 実習の結果

保健師課程19名の学生全員が実習を修了し、公衆衛生看護学実習の単位認定を受けた。臨地実習日数別の学生数を表5に示す。「市町村保健センター実習」では、体調による実習不可となった学生1名を含め、平均臨地実習日数は3.8日(0日～5日)であった。「保健所実習」では、体調による実習不可となった学生2名を含め、平均臨地実習日数は3.4日(0日～5日)であった。両方合計した「地域保健実習」では、平均臨地実習日数は7.2日(2日～10日)であった。

表5 臨地実習日数別学生数

市町村実習 臨地実習日数(A)		保健所実習 臨地実習日数(B)		地域保健実習 (市町村実習+保健所実習) 臨地実習日数 (A+B)	
日数	人数	日数	人数	日数	人数
0日	1	0日	2	2日	1
1日	1	3日	10	3日	1
2日	2	5日	7	4日	1
3日	4			5日	2
5日	11			6日	3
				8日	5
				10日	6
平均日数	3.8日	平均日数	3.4日	平均日数	7.2日
最短日数	0日	最短日数	0日	最短日数	2日
最長日数	5日	最長日数	5日	最長日数	10日

教員による平均評価点は学校保健実習86.1点(85点～92点)、地域保健実習87.7点(81点～95点)と高い評価点であった。自己評価点は教員評価よりも低かったがこちらも学校保健実習84.1点(75点～95点)、地域保健実習80.0点(71点～88点)と高い評価であった。

評価表の自由記載欄に学生が記入した内容をまとめた結果を表6(学校保健実習)表7(地域保健実習)に示す。以後カテゴリを『 』、サブカテゴリを「 」,コードを〈 〉で示す。

表6 学校保健実習評価表 学生の自由記載

カテゴリ	サブカテゴリ (コード数)
1. 理解した内容	養護教諭の役割・連携の理解 (11)
	学校保健の構造の理解 (8)
	児童の発達・健康問題の理解 (1)
2. 理解の方法	DVDを通じての学び (7)
	健康課題学習からの学び (5)
	健康教育(リーフレット作成)からの学び (4)
	実習目標の意識化で深まる理解 (4)
3. 実習への思い	リモート実習となったことへの残念な思い (4)
	リモート実習であっても深まった学び (3)
	リモート実習への積極的な姿勢 (1)
4. 自己の課題	実習後に感じた自己の課題 (6)
5. リモート環境	リモート環境による不具合 (1)

表7 地域保健実習評価表 学生の自由記載

カテゴリ	サブカテゴリ (コード数)
1. 理解した内容	保健師の役割・連携の理解 (9)
	市町村保健センターと保健所の機能の理解 (5)
	保健事業の理解 (4)
2. 理解の方法	学ぶべき視点の意識化で深まる理解 (5)
	地域診断を通して深まる理解 (5)
	メンバー間の共有で深まる理解 (2)
3. 実習への思い	制限のある実習への積極的な姿勢 (9)
	臨地実習への感謝 (6)
	限られた体験への残念な思い (2)
4. 自己の課題	実習後に感じた自己の課題 (1)

学校保健実習では45のコード、12のサブカテゴリ、5のカテゴリが抽出された。『理解した内容』は「養護教諭の役割・連携の理解」「学校保健の構造の理解」「児童の発達・健康問題の理解」で構成されていた。『理解の方法』は「DVDを通じての学び」「健康課題学習からの学び」「健康教育(リーフレット作成)からの学び」「実習目標の意識化で深まる理解」で構成されていた。『実習への思い』は「リモート実習となったことへの残念な思い」がある一方、「リモート実習であっても深まった学び」や「リモート実習への積極的な姿勢」もみられた。その他『自己の課題』や『リモート環境による不具合』というカテゴリも抽出された。

地域保健実習では48のコード、10のサブカテゴリ、

4のカテゴリが抽出された。『理解した内容』は「保健師の役割・連携の理解」「市町村保健センターと保健所の機能の理解」「保健事業の理解」で構成されていた。『理解の方法』は「学ぶべき視点の意識化で深まる理解」「地域診断を通して深まる理解」「メンバー間の共有で深まる理解」で構成されていた。『実習への思い』は「制限のある実習への積極的姿勢」や「臨地実習への感謝」がある一方「限られた体験への残念な思い」も見られた。その他『自己の課題』も抽出された。

V. 考察

1. 公衆衛生看護学実習でのリモート実習内容について

1) DVD教材の活用

臨地実習で実際目にする対象者のとらえ方は学生個々に異なるが、教材としてのDVDは目的をもって構成されており見る視点が明確である。そのため学生は対象を理解する方向へ導かれながら視聴することができ、平均して学生の理解が進んだのではないかと考えられる。学生の理解の促進のためには目的の明確化と最適なDVDの選択、学生への課題の具体的な提示、DVDから思考を発展させる問いかけ等のDVD活用の工夫が必要である。岸らによる保健師学校養成所の調査によると、もともと大学（保健師課程選択制）では、実習における体験が見学あるいは参加レベルが主であり、「説明で補うなどの対応が必要な状況になっており、教員の指導上の工夫が求められている」³⁾と述べられている。このことから今回実施したDVDを活用したリモート実習内容は、コロナ禍が終息した後の公衆衛生看護学実習においても、臨地実習での体験不足の補完のために活用することが効果的であると考えられる。

2) 対象を思い描ける実習

学校保健実習の自由記載の『理解の方法』では「健康教育（リーフレット作成）からの学び」で「健康教育をするにあたって対象にわかりやすい言葉や表現、レイアウトを選択する難しさと大切さを学んだ」という記載がみられた。健康教育企画は自主的に創造する内容として例年掲示物の作成を行ってきたが、今回は実際に小学校に作成したリーフレットを届けるというゴールを設定した。そのため学生は健康教育を提供する相手を思い描き、特定の対象のために考えるという臨地実習に近い体験となったと考えられる。

また保健所実習で同行訪問が困難な中、臨地で実際の訪問事例を読み取り支援状況をまとめ事例発表するという実習を行った。本来臨地実習では対象の状況を五感を通して観察し情報を得てアセスメントする。しかし対象との対面ができない中では、学生は限られた情報から事例の暮らしぶりや療養状況を読み取り、イメージを膨らませ支援の方向性を必死に考えなければならない。会えない対象を思い描くことが学生の想像力・発想力・創造力の育成につながるのではないかと考えられる。

3) リモート環境でのグループワーク・カンファレンス

学校保健実習の自由記載の『理解の方法』では「課題学習からの学び」〈健康問題について自分で考察し周りの意見も聞いて理解を深められた〉という記載がみられ、さらに地域保健実習では『理解の方法』の「メンバー間の共有で深まる理解」では〈臨地実習を終えた人からの学びの共有があったことで学びを深められた〉という記載があった。リモート実習では画面を通しての会話となるが、相手の表情を見て声を聴いて意見交換できる点では通常臨地実習でのグループワークやカンファレンス同様、体験や意見を共有することで学びが深まることに変わりはないと考えられる。

また教員としてリモートグループワーク指導を通して気づいたことは、学生の思考や理解度を把握しやすいこと、適切な助言を適切なタイミングで伝えられるということである。通常の実習中のグループワークでは学生だけで話し合ったのちに教員が同席することが多く、その間のプロセスは把握できない。リモートグループワークでは学生間の会話を継続して長時間聞くことができるため学生個々の把握が可能となり、より個別性のある助言をすることができるというメリットも感じられた。

4) 実習事前学習の必要性

実習前に課している実習事前学習課題は、必要な知識をまとめる課題と、実習で学ぶべき視点を考えて記述する課題と、実習地域の地域診断をまとめる課題である。自由記載の『理解の方法』では「学ぶべき視点の意識化で深まる理解」〈実習前に学びたい目標を明確にして取り組んだことで、DVDからでも積極的に観察や情報収集をすることが出来た〉や「地域診断を通して深まる理解」〈地域診断に取り組み、住民の暮らしを意識しながら地域を理解しようとする事が出来た〉という記載があり、実習で何のために何を観る

のかを学生自身が明確に意識することが、リモート実習でも有効であることが考えられる。事前課題も含めて実習であることを改めて実感した結果となった。

2. コロナ禍での実習に対する学生の思いについて

自由記載の『実習への思い』では「リモート実習となったことへの残念な思い」〈実際の児童を観察したり関わったりする中で成長発達について学びたかったのが少し残念〉や「限られた体験への残念な思い」〈本当はもっと実際を見たかった〉という記載がある一方で前向きな思いも多くみられた。「リモート実習であっても深まった学び」〈実際の現場を見ることができないからこそより知識や考えが必要であり学びを深めることができた〉という記載や「制限のある実習への積極的姿勢」〈実習期間が短い分1日1日を大切に実習に取り組めた〉〈制限のある実習であった中、自主的に学ぶ姿勢を持ち積極的に実習できた〉という記載には、本来学生が持っている学ぶことへの欲求が現れている。

さらには「臨地実習への感謝」〈実習地が変更することになったが、普通に実習できることの大切さにはじめて気づいた〉〈保健所や保健センターの臨場感あふれる様子を体験できたことに感謝したい〉という記載をみると、学生達は与えられて当たり前だった実習の機会を、感謝すべき特別な機会なのだと気づき、そのチャンスを活かすために積極的な姿勢で実習に臨んだのだと考えられる。佐伯は保健師の教育について「学生は保健師の先輩として、またモデルとして教員を見ているので、教員の後姿は学生にとって身近な教材となっている」⁴⁾と述べている。教員を保健師に置き換えると、たとえ臨地実習期間は短縮されても、保健師の先輩である実習地の保健師が、最前線で感染症と戦う姿を見ることができたことは、何よりも身近な教材として学生の心に深く刻まれていることと考える。保健師教育モデル・コア・カリキュラム検討委員会が示した公衆衛生看護学実習の概要には「専門職としての実践を省察し、保健師としての使命感や責任感を修得する」⁵⁾とある。その意味では今回のコロナ禍における実習体験は、平常時には見えにくい保健師としての使命感、責任感を肌で感じる事ができた稀有な機会であったと考えられる。

3. リモート実習の今後の実習への活用の可能性

今回はコロナ禍により実習方法の変更を余儀なくさ

れ、従来の臨地実習の代わりとなるリモート実習を急遽構築し展開していった。今後もCOVID-19がどのように生活に影響し続けるか予測がつかない状況であるが、どのような状況になっても今回のリモート実習の経験を基に、臨機応変な対応で実習内容を構築していくことが可能となったと考える。

また今回実施したリモート実習は、コロナ禍が終息した後の公衆衛生看護学実習においても、併用して実施することで学生の理解が促進されるのではないかと予測できる。例えばDVDを活用したりリモート実習内容は、臨地実習での個々の体験不足の補完のために活用することができる。また実習の前後に対象者について思い描くことを促す課題を提供することで、学生の想像力・発想力・創造力の育成につながると考えられる。臨地での実習をより深められるように、今回のリモート実習内容を今後も活用する方向で模索を続けていく必要がある。

おわりに

今年度の公衆衛生看護学実習を振り返ってみると、先が予測できない状況の中で教員も学生も取り組んできた。教員として準備する時間もないまま不慣れた機器を使い、学生と対面できない分、言葉を選びきちんと意図が伝わっているか留意しながら関わった。学生も予定が次々変わり不安であったと思われる中、与えられるのではなく求める気持ちで学ぶことで自主的に積極的に行動する方向に動いていったことは想定外の効果であった。その結果公衆衛生看護学実習の目標を十分達成できたのではないかと考える。新型コロナウイルス感染症の収束状況によって、今後もリモート実習の継続は必要になると思われる。今年度の試みを活かして更なる実習の充実を図っていきたい。

利益相反

開示すべき利益相反はない。

文献

- 1) 「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応について」(令和2年2月28日・文部科学省・厚生労働省事務連絡)
- 2) 「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う医療関係職種等の各学校、養成所及び養成施設等の対応につい

て」(令和2年6月1日・文部科学省・厚生労働省事務連絡)

- 3) 岸恵美子, 鳥本靖子, 荒木田美香子ら: 保健師学校養成所における教育方法と教育成果の実態調査. 保健師学校養成所における基礎教育に関する調査報告書: 12-36 (2018)
- 4) 佐伯和子: 保健師教育のカリキュラム構築. 保健師教育. 第2巻第1号: 2-9 (2018)
- 5) 保健師教育モデル・コア・カリキュラム検討委員会: 公衆衛生看護学教育モデル・コア・カリキュラム(2017)の概要. 保健師教育. 第2巻第1号: 19-25 (2018)

受付日: 2021年2月15日 受諾日: 2021年5月14日

